

肢体不自由児が在籍している特別支援学校における理学療法士の活用について

藤川 雅人

I 問題と目的

特別支援学校に在籍している児童生徒の障害の重度・重複、多様化の進展に伴い、指導内容が多岐にわたるようになり、教師には多様な専門性が求められている。しかし、教師の異動サイクルの短縮化により、専門性の維持や発展が危惧されている。平成 17 年中央教育審議会答申、平成 22 年特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議審議経過報告において、外部専門家を総合的に活用することが提言された。柳本(2008)は、肢体不自由特別支援学校として自立活動の専門性を維持・向上させるには、外部専門家の活用は不可欠であると指摘しており、どのように外部専門家を活用していくかが問われている。豊田(2010)は外部専門家を活用した教師の指導の効果を上げる背景には、教師の意識の変容があることを報告している。また、清水・香野(2010)は外部専門家を活用するには、校内体制の整備が重要であると指摘している。そこで、本研究では、肢体不自由の特別支援学校において、外部専門家の中で最も活用されている理学療法士(以下、PT)を取り上げ、肢体不自由児が在籍する特別支援学校におけるPTの活用に対する教師の意識(以下、教師の意識)、PTの活用の校内体制(以下、校内体制)、PTを活用した教師の実践(以下、教師の実践)の各実態を明らかにするとともに、PTを活用した教師の実践の関連要因について分析及び検討することを目的とした。

II 方法

1 対象

全国の肢体不自由児の在籍する特別支援学校 141 校のPTの活用を推進する分掌の担当者 141 名、PTを活用したことがある教師 516 名に調査用紙を送付し、PTの活用を推進する分掌の担当者 128 名、PTを活用したことがある教師 471 名

から回答を得て、有効回答をPTの活用を推進する分掌の担当者 128 名、PTを活用したことがある教師 435 名とした。

2 調査方法・時期

予備調査を経て確定した質問項目を用いて郵送による質問紙調査を 2011 年 7 月下旬から 8 月中旬に実施した。

III 結果

教師の意識及び教師の実践について、5 段階の尺度で測定し、得点化して因子分析を行った。教師の意識は、「活用の有用性」「活用の困難さ」「指導助言の受動性」「教師の役割意識」の 4 因子が、教師の実践は「指導の計画・実践・評価・改善」「様々な観点や分析に基づく指導」「指導計画の見直しや補装具等の調整」「他教師との指導助言の共通理解」「課題や確認事項の明確化」「教材教具の適切な活用」の 6 因子が抽出された。教師の意識を独立変数、教師の実践を従属変数として重回帰分析を行ったところ、「活用の有用性」と「教師の役割意識」がPTを活用した教師の実践の 6 因子すべてに対し有意に正の影響を及ぼしていた。また、「指導助言の受動性」が「指導計画の見直しや補装具等の調整」に対し有意に正の影響を、「活用の困難さ」が「教材教具の適切な活用」に対し有意に負の影響を及ぼしていた(表 1)。

教師やPTの属性、PTの活用方法をはじめとする校内体制を独立変数、PTを活用した教師の実践を従属変数として、分散分析を行った。

教師やPTの属性において、PTを活用した教師の実践の因子に有意な差が認められたものは、肢体不自由教育経験年数、児童生徒の教育課程、PTの所属機関、訓練担当のPT活用の有無であるが、有意な差が認められた教師の実践の因子は限られていた。肢体不自由教育経験年数は「様々な観点や分析に基づく指導」に、担当児童生徒の

表1 PTの活用に対する教師の意識がPTを活用した教師の実践との重回帰分析結果

独立変数	従属変数					
	指導の計画・実践・評価・改善	様々な観点や分析に基づく指導	指導計画の見直しや補装具等の調整	他教師との指導助言の共通理解	課題や確認事項の明確化	教材教具の適切な活用
活用の有用性	.534***	.251***	.171***	.178***	.226***	.371***
活用の困難さ						-.092*
指導助言の受動性			.126**			
教師の明確な役割意識	.230***	.218***	.291***	.204***	.276***	.213***
調整済みR ²	.385	.128	.152	.083	.149	.249
F値	136.719***	32.937***	26.969***	20.725***	38.886***	49.070***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

教育課程は「教材教具の適切な活用」に、PTの所属機関は「他教師との指導助言の共通理解」に、訓練担当のPT活用の有無は、「指導の計画・実践・評価・改善」「様々な観点や分析に基づく指導」「課題や確認事項の明確化」に有意な差が認められた。

校内体制において、本研究で用意した項目すべてと教師の実践の複数の因子に有意な差が認められた。推進組織の設置の有無、PTの活用目的の教育計画記載の有無はPTを活用した教師の実践6因子すべてに、コーディネーターの設置の有無は「課題や確認事項の明確化」以外の5因子に、推進者による全教師への活用目的の説明の有無は、「指導の計画・実践・評価・改善」と「教材教具の適切な活用」に、情報交換のツールの有無は、「指導の計画・実践・評価・改善」「様々な観点や分析に基づく指導」「指導計画の見直しや補装具等の調整」「教材教具の適切な活用」に、PT講師の研修会の有無は「指導の計画・実践・評価・改善」「様々な観点や分析に基づく指導」「教材教具の適切な活用」に有意な差が認められた。

活用方法については、本研究で用意した項目すべてがPTを活用した教師の実践の複数の因子に有意な差が認められた。PTへの活用目的の説明の有無は「指導の計画・実践・評価・改善」「様々な観点や分析に基づく指導」「指導計画の見直しや

補装具等の調整」「他教師との指導助言の共通理解」「教材教具の適切な活用」に、PTへの自立活動の意義や目的の説明の有無は教師の実践6因子すべてに、活用頻度は「指導の計画・実践・評価・改善」「様々な観点や分析に基づく指導」「指導計画の見直しや補装具等の調整」「教材教具の適切な活用」に、活用形式は教師の実践6因子すべてに有意な差が認められた。

PTへの情報伝達の内容について、現在行っている手だてや方法の伝達の有無、自立活動の目標の伝達の有無、活用後の児童生徒の様子や変容の伝達の有無、活用後の指導の修正や方向性の伝達の有無は、教師の実践6因子すべてに、課題・疑問・確認点の伝達の有無は「指導計画の見直しや補装具等の調整」以外の教師の実践5因子に、児童生徒の身体状況や様子の伝達の有無、自立活動の学習内容の伝達の有無は「他教師との指導助言の共通理解」以外の教師の実践5因子に有意な差が認められた（表2、表3）。

IV 考察

PTを活用した効果的な実践をするためには、教師の「活用の有用性」と「教師の役割意識」の意識を高めていく必要があると考えられる。

また、自立活動の意義や目的、活用する目的をPTへ説明し、幅広い側面において情報を伝達することが不可欠であるため、活用推進組織の設置

表2 情報伝達の有無とPTを活用した教師の実践I

	<i>n</i> =435	指導の計画 ・実践・評価 ・改善 (<i>M</i>)	<i>SD</i>	<i>F</i> 値	様々な観 点や分析 に基づく 指導 (<i>M</i>)	<i>SD</i>	<i>F</i> 値	指導計画 の見直し や補装具 等の調整 (<i>M</i>)	<i>SD</i>	<i>F</i> 値
現在行っている指導の手立てや方法										
あり	350	46.17	7.12	12.31***	20.15	3.97	18.63***	16.06	3.60	9.99**
なし	85	43.11	7.60		18.05	4.31		14.66	3.91	
課題・疑問・確認点										
あり	344	46.13	7.33	9.96**	20.01	4.09	6.96**	15.93	3.71	2.48
なし	91	43.44	6.86		18.74	4.09		15.24	3.62	
児童生徒の身体状況や様子										
あり	290	46.27	7.32	8.06**	20.06	4.11	7.18**	16.12	3.72	7.18**
なし	145	44.17	7.11		19.11	4.08		15.12	3.56	
自立活動の学習内容										
あり	217	46.79	7.24	12.39***	20.26	3.88	6.88**	16.35	3.51	10.39**
なし	218	44.35	7.19		19.23	4.29		15.22	3.80	
自立活動の目標										
あり	152	48.41	6.44	38.53***	20.68	3.87	12.36***	17.18	3.59	35.90***
なし	283	44.04	7.30		19.24	4.17		15.04	3.54	
活用後の児童生徒の様子や変容										
あり	122	48.42	7.21	27.37***	21.34	3.73	27.19***	17.26	3.73	28.87***
なし	313	44.46	7.05		19.12	4.10		15.21	3.52	
活用後の指導の修正や方向性										
あり	107	48.42	7.40	22.71***	21.20	3.80	18.38***	17.46	3.25	31.14***
なし	328	44.64	7.04		19.27	4.11		15.24	3.67	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

表3 情報伝達の有無とPTを活用した教師の実践II

	<i>n</i> =435	他教師と の指導助 言の共通 理解 (<i>M</i>)	<i>SD</i>	<i>F</i> 値	課題や確 認事項の 明確化 (<i>M</i>)	<i>SD</i>	<i>F</i> 値	教材教具 の適切な 活用 (<i>M</i>)	<i>SD</i>	<i>F</i> 値
現在行っている指導の手立てや方法										
あり	350	7.88	1.35	24.35***	7.76	1.38	26.54***	7.46	1.36	22.90***
なし	85	7.04	1.67		6.86	1.71		6.66	1.48	
課題・疑問・確認点										
あり	344	7.85	1.40	13.75***	7.75	1.40	20.66***	7.38	1.44	5.31*
なし	91	7.22	1.54		6.97	1.66		7.00	1.30	
児童生徒の身体状況や様子										
あり	290	7.80	1.48	3.24	7.74	1.42	10.39**	7.42	1.44	6.37*
なし	145	7.54	1.39		7.26	1.57		7.06	1.36	
自立活動の学習内容										
あり	217	7.80	1.41	1.55	7.73	1.39	4.36*	7.55	1.36	13.27***
なし	218	7.63	1.49		7.44	1.57		7.06	1.44	
自立活動の目標										
あり	152	7.94	1.39	5.70*	7.99	1.24	17.78***	7.69	1.33	18.09***
なし	283	7.59	1.48		7.37	1.56		7.10	1.42	
活用後の児童生徒の様子や変容										
あり	122	8.11	1.38	12.64***	8.13	1.24	24.14***	7.82	1.28	23.61***
なし	313	7.56	1.46		7.37	1.52		7.10	1.42	
活用後の指導の修正や方向性										
あり	107	7.98	1.39	4.81*	8.12	1.17	19.29***	7.77	1.21	15.61***
なし	328	7.63	1.46		7.41	1.54		7.15	1.45	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

をはじめとする校内体制の整備を進める必要性が示唆された。

文献

清水笛子・香野毅(2010)特別支援学校の自立活動における外部専門家の活用について. 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 18, 83-91.

豊田利朗(2010)外部の専門家との組織的な連携・協力による教員の専門性の向上. 肢体不自由のある子どもの教育における教員の専門性向上に関する研究成果報告書. 国立特別支援教育総合研究所, 68-76.

柳本雄次(2008)特別支援学校における自立活動指導の専門性の向上(2). 日本特殊教育学会第46回大会論文集, 632.